

※水色と黄色のセルは回答必須(回答すると色が消失)。				送付先:report@r-ict-advisor.jp (一財)全国地域情報化推進協会	
派遣決定番号 002K					
報告日 令和7年7月18日					
報告回次 1日目					
令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書					
地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。					
記					
1. 申請団体情報					
1-1. 申請団体					
団体名	鹿嶋市教育委員会			代表者名	川村 等
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	教育指導課	連絡先電話番号	0299-82-2911
担当者役職	指導主事	担当者氏名	神宮司 剛	連絡先E-mail	
住所	314-8655 茨城県鹿嶋市平井1187番地1				
1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)					
団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	
1-3. 支援を求める内容					
支援方法	職員向け啓発・研修(複数団体)	事業名	鹿嶋市情報教育研修会		
概要	教育用生成AIの活用など、学校のDX化による授業の質的向上と校務の効率化の両立を目指した先進事例の授業公開、研究協議、講師指導を行い、その成果を保護者、地域住民及び市内教員と共有することにより、児童生徒、保護者、地域住民及び教員の情報活用能力の向上を図る。				
支援を求める分野	人材(DX推進のための機運の醸成) 人材(DXに関する知識習得・研修・育成) AI活用 生成AI活用 教育情報化／情報教育働き方 ICT活用広報				
2. 地域情報化アドバイザー派遣実績					
2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和7年7月17日	支援・助言&講演(実地)	13時30分	16時30分	
				活動時間(分)	180
2-2. 派遣場所	会場名	鹿嶋市立豊郷小学校		最寄駅	鹿島神宮駅
	所在地	茨城県鹿嶋市須賀1170		最寄駅からの交通手段	送迎
3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望					
支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。					
アドバイザー	平井 聡一郎				
評価	大変良い				
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	授業参観を通して、ICT機器を効果的に活用した授業のあり方について具体的な改善策をご指導いただき、教員のICT活用指導力向上に繋がる知見が得られた。				
アドバイザーへの要望事項	引き続き、学校の実態に応じたご指導をいただくとともに、保護者及び地域住民の方々が教育プロセスへの理解を深められるよう、具体的な手立てについてご助言いただきたい。				
4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果					
4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	30人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	30			
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果					
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	市を挙げた教育用デジタルドリルや教育用生成AIの活用といった取り組みにおいて、学校間で格差が生じている。本事業を通じて、教育利用、校務利用の両面で好事例を継続的に共有していく必要がある。				
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	様々な情報教育研修を通じて教育DX推進リーダーを育成し、市内全ての小中学校で1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。				

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	・研究授業参観 第5学年1組 算数科 ・授業者への講師指導 ・講演「児童生徒の学びを支える『教育DX』を実現するために」	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	今回の研修により、参加者のAI活用への意識は大きく向上した。多くの教員が、AIが授業案の作成、問題作成、模範解答の提示、さらには授業分析や生徒の振り返りなど、多岐にわたる場面で強力なツールとなる可能性を認識し、その具体的な活用方法に強い関心を示した。特に、「考える」場面を意図的に設ける授業デザインの重要性も再認識され、AIを単なる効率化ツールとしてだけでなく、生徒の深い学びを促すための思考ツールとして活用しようとする意欲が高まった。ICT機器の良い側面だけでなく、その課題や使いにくい点についても活発な議論が行われ、より実践的で多角的な視点からICT活用を捉えることができるようになった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
	8月下旬に「校内研修の進捗状況と今後の方針」を、12月中旬には「校内研修の成果発表と活用指導力の状況」を、市内全校で作成する予定である。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	研修結果からは、情報主任など一部の教員に研修内容が留まりがちであるという課題が依然として残っていることが明らかになった。全教員がICT、特にAIを活用できるようになるためには、研修内容の動画配信や、夏休みなどの長期休暇を活用した自主学習の機会提供など、より多くの教員が参加しやすい工夫が求められている。また、AI活用の意欲は高まっているものの、各教科における具体的な活用事例や、特定の場面、単元での使いこなし方など、実践レベルでの詳細な情報や、教師自身が実際に手を動かして試せるような研修の機会が不足しているとの声もあがった。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	今回の研修は、参加者の91.7%が非常に参考になったと評価した。特にAIの授業活用への関心が高く、授業案作成や生徒の思考を促すAI活用への意欲が見られる。一方で、全教員への情報共有や、教科ごとの具体的なAI活用事例、実践的なアプリの使い方に関する今後の研修ニーズも示された。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	8月には、各小中学校から推薦された教育改革推進の中心的教職員(教育DX推進リーダーおよびサブリーダー)を招集し、「校内研修の進捗状況に関する中間報告会」を実施する。この会では、ICTを効果的に活用した授業づくりを促進するための校内研修のあり方について協議を深める。この協議内容を踏まえ、9月と12月のアドバイザーによる指導助言へと繋げていく。	
4－4. 事業の最終的な目指す姿	令和8年度末までに、市内全校の教員がICT機器の授業における効果的な活用方法を共有・普及させることで、教員のICT活用指導力を向上させる。これにより、未来の地域活性化を担う児童生徒に必要な情報活用能力の育成に貢献する。	
5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		
掲載許可	☐ 掲載可	
なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください		
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子		
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。		
		